

# English Wind

小学校全教職員及び  
中学校英語科担当教員配付

英語教育の



## 1 新学習指導要領における「学習評価」を考える ③「小学校高学年(5・6年)」Ⅲ

●小学校における学習評価について、今号は領域別に各観点の取扱を整理します。「参考資料」の第3編(暫定版)がお手元にある場合は、以下を基に読み込んでいくと、評価に関するイメージが明確になってきます。

### ●外国語における「知識」とは？

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

・「知識」については、小学校学習指導要領 「2 内容[第5学年及び第6学年]」の[知識及び技能]における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記載されていることを指しており、それらの事項を理解している状況を評価する。

学習指導要領の当該部分に記載されていることを「知識」とします。

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)

各言語の目標及び内容等

内容

内容

内容

内容

指導計画の作成と内容の取扱い

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)

2 内容

(第5学年及び第6学年)

[知識及び技能]

1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

ア 音声

次に示す事項のうち基本的な語や句、文について取り扱うこと。

(7) 現代の標準的な発音

(8) 語と語の連結による音の変化

(9) 語や句、文における基本的な強勢

(10) 文における基本的なイントネーション

(11) 文の基本的な区切り

学習指導要領の紙面上では、このように、**目標の次に来る部分** (ピンクの「内容」と記している **赤枠の部分**) になります。

具体的には、この部分から始まる一連の「**言語材料**」のことと言えます。

### ●「聞くこと」の知識・技能及び思考・判断・表現 ※文部科学省からの情報提供のとおり、常にこのような区分けの評価になるわけではありません。

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

1 小学校外国語科の「内容のまとまり」

小学校外国語科における「内容のまとまり」は、小学校学習指導要領 第2章第10節外国語 第2 各言語の目標及び内容等 英語 1 目標に示されている「五つの領域」のことである。

○ 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、**簡単な語句や基本的な表現を聞き取る**ことができるようにする。

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、**具体的な情報を聞き取る**ことができるようにする。

ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、**短い話の概要を捉える**ことができるようにする。

アイは**技能**

ウは**思考・判断・表現**

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

(1) 内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

・「技能」について

- 「聞くこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される**簡単な語句や基本的な表現**や、日常生活に関する身近で簡単な事柄について**具体的な情報を聞き取る技能**を身に付けている状況を評価する。

○「思考・判断・表現」のポイント

・「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを聞いて、**その概要を捉えている**状況を評価する。

### ●「読むこと」の知識・技能及び思考・判断・表現 ※文部科学省からの情報提供のとおり、常にこのような区分けの評価になるわけではありません。

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

1 小学校外国語科の「内容のまとまり」

小学校外国語科における「内容のまとまり」は、小学校学習指導要領 第2章第10節外国語 第2 各言語の目標及び内容等 英語 1 目標に示されている「五つの領域」のことである。

○ 読むこと

ア **活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音**することができるようにする。

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が**分かる**ようにする。

アは**技能**

イは**思考・判断・表現**

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

(1) 内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

・「技能」について

- 「読むこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、**アルファベットの活字体の大文字・小文字を識別**したり、その**読み方(文字の名称)を発音**したりする技能を身に付けている状況を評価する。

○「思考・判断・表現」のポイント

・「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて**書かれた簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味が分かっている**状況を評価する。

※全て暫定情報です。

# 「話すこと [やり取り]」 及び 「話すこと [発表]」の知識・技能及び思考・判断・表現

言語材料が**提示された状況**で評価

「話すこと [やり取り]」は、**伝え合っている状況**を評価

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

(1)内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

・「技能」について

「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」

- なお、指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり話したりする技能を身に付けている状況か否かを評価することにとまらず、使用する言語材料の提示がない状況においても、既習の言語材料を用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり話したりする技能を身に付けている状況か否かについても評価する。

MEXT

○「知識・技能」のポイント ・「技能」について

- 「話すこと [やり取り]」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ち、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う技能を身に付けている状況を評価する。

- 「話すこと [発表]」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分のこと、身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す技能を身に付けている状況を評価する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

(1)内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「思考・判断・表現」のポイント

・「話すこと[やり取り]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ち、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている状況を評価する。

・「話すこと[発表]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分のこと、身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話している状況を評価する。

MEXT

言語材料の**提示がない状況**で評価

「話すこと [発表]」は、**話している状況**を評価

# 「書くこと」の知識・技能及び思考・判断・表現 ※文部科学省からの情報提供のとおり、常にこのような区分けの評価になるわけではありません。

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

1 小学校外国語科の「内容のまとまり」

小学校外国語科における「内容のまとまり」は、小学校学習指導要領 第2章第10節外国語 第2 各言語の目標及び内容等 英語 1 目標に示されている「五つの領域」のことである。

○書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、~~例文を参考に~~、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

アのアルファベットは**技能**

アの書き写しとイは**思考・判断・表現**

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(案)

(1)内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

・「技能」について

- 「書くこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、「知識」を活用して、アルファベットの活字体の大文字・小文字を書く技能を身に付けている状況を評価する。

○「思考・判断・表現」のポイント

・「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について、書いたりしている状況を評価する。

アの目標は、大文字及び小文字を正しく書き分けること、**語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して**、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにすることを示している。「解説」より

イの目標は、英語で書かれた文、又はまとまりのある文章を参考にして、その中の一部の語、あるいは一文を自分が表現したい内容のものに**置き換えて**文や文章を書くことができるようにすることを示している。「解説」より

～具体的な評価のポイント～

**文字と文字を詰めて単語を、語と語の間にスペースをおいて語句や文を、書き写したり書いたりしている状況**を評価します。

# ●外国語における「主体的に学習に向かう態度」とは？

小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 外国語活動・外国語

外国語教育における「学びに向かう力、人間性等」は児童が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、児童に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」は不可分に結び付いている。

このことを踏まえれば、(1)「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成する必要がある。

観点1と観点2は、観点3と**不可分**に結び付いています。

観点1と観点2を**一体的に**育成する過程を通して、観点3を育成します。

児童生徒の学習評価の在り方について(報告)平成31年1月

ウ)「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法

○「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。

観点1と観点2の**状況を踏まえた上で**、観点3の評価を行います。

●全体を通して、「技能」には「**実際のコミュニケーションにおいて**」という言葉が、「思考・判断・表現」には「**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて**」という言葉があることにも留意したいものです。

※全て暫定情報です。